奈良・西大寺

1 所在地　奈良市西大寺芝町一丁目
2 調査期間　一九八九年（平1）八月～一〇月
3 発掘機関　奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
4 発掘担当者　代表　町田　章
5 遺跡の種類　寺院跡
6 遺跡の年代　古墳時代～近世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は一九八九年度の防災工事に伴うもので、西塔跡北東部を中心に、ここから北の本坊、東の愛染堂、東塔跡近くなどに至る幅一・五m、総延長約一三〇mのトレンチを設定して実施した。検出した遺構および遺物の詳細は関係文献を参照していただくとし、ここでは対象を木簡が出土した遺構と同時期のものに限定する。木簡はトレンチの南西にあたる近世の土坑（SK三三）から出土した。土坑からは若干の瓦・土器が出土しているが、明確に時期を決定する材料はない。同時期の遺構として、溝六条、礎石建物二棟、瓦を用いた便所などがあり、建物は位置から考えて、元禄一一年（一六九八）「西大寺伽藍敷地并現存堂舎坊院図」などの古絵図に見える龍池院に関連するものと思われる。

（奈　良）

8　木簡の釈文・内容

(1)・　〔西大カ〕□□寺龍池院荷物　　江戸本□□□

大坂北革屋町善南筋東へ入南側

□登□隼人様　　金剛院　○

ちん済八つ之内　　」

・『南無観世音菩薩』　　○」

267×78×7　065

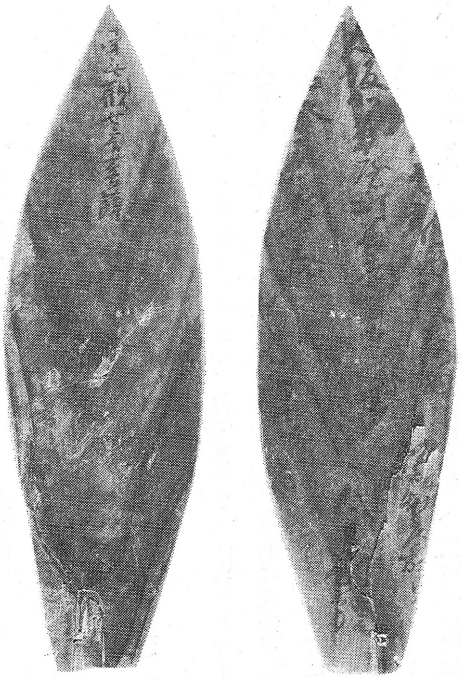
木簡は現状では蓮弁形をしており、表・裏の文字は別筆と考えられる。形態は、「西大寺龍池院荷物」の荷札を二次的に蓮弁形に加工したものである。大坂北革屋町は現在の大阪市中央区船越町にあたり、その町名はすでに江戸時代初期の絵図に見える。延宝三年（一六七九）、二町に分け、北革屋町一丁目、二丁目となったというが、本木簡の場合、何丁目を略した可能性もあり、二町の分置により木簡の年代を決定することはできない。この木簡は龍池院荷物の

荷受先が「大坂北革屋町善南筋東へ入南側／□登□隼人様」であることを示し、荷物はさらに奈良の西大寺に送られ、荷札はそこで廃棄されたのであろう。「江戸本□□□／金剛院」は位置としては差出にあたるが、西大寺の塔頭にも金剛院があり、この部分の解釈は不詳である。

なお、裏の「南無観世音菩薩」の「南」の右上端は欠けており、蓮弁形に加工する以前から墨書されていたのか、加工の際に墨書され、やや削りすぎたものかは明らかではない。

9　関係文献

奈良国立文化財研究所『一九八九年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』（一九九〇年）

西大寺『西大寺防災施設工事・発掘調査報告書』（一九九〇年）

（森　公章）